

米ISM非製造業景気指数に注目、豪州の政策金利発表なども予定

2024年8月5日(月)

今週の主要な米指標発表は5日の7月ISM非製造業景気指数と6日の6月貿易収支程度となっています。貿易収支も相場に大きな影響力があったのは2000年代初めぐらいまでで、ここ20年ほどは目立った影響はありません。

ISM非製造業景気指数は1日に発表された同製造業景気指数がかなり弱く出ただけに少し警戒感があります。7月のISM製造業は6月の48.5から48.8への小幅改善が予想されていましたが、46.8と予想外に悪化しました。昨年11月以来8か月ぶりの低水準となっています。特に目立ったのが雇用部門の悪化で、6月の49.3から43.4へ5.9ポイントの悪化となりました。2020年6月以来の低水準です。生産は48.5から45.9に2.6ポイントの悪化。2020年5月以来の低水準です。新規受注は49.3から47.4へ1.9ポイントの悪化です。在庫は0.9ポイントの悪化、総合指数を構成する5項目のうち供給のみ+2.8ポイントと改善し、50も超えています。その他調査項目では価格が+0.8ポイントなっていました。

この弱いISM製造業景気指数を受けての、ISM非製造業景気指数ですが、6月の48.8から51.3と改善見込みになっています。好悪判断の境となる50も2か月ぶりに回復する見込みです。ISM非製造業は5月の53.8から6月は48.8へ、市場予想の52.5を大きく超える悪化となりました。新規受注が54.1から47.3に悪化、製造業の生産にあたる事業活動は61.2から49.6と11.6ポイント悪化となっています。こうした前回の大きな動きの反動もあって、少し戻してくると期待されているようです。ただ、製造業の弱さに見られる米景気の鈍化傾向から、予想ほど改善しない可能性があります。その場合はドル売りが強まると見込まれます。

米国以外の材料としては、豪州とメキシコの政策金利発表があります。

オーストラリア準備銀行(中央銀行)金融政策会合は6日13時半に結果が発表されます。政策金利は現行の4.35%で維持される見込みです。豪州は物価の反発が見られたこともあり、一時年内追加利上げ期待が広がっていました。しかし7月31日に発表された豪第2四半期消費者物価指数(CPI)は総合こそ住居費や食品価格の上昇もあって前年比+3.8%と第1四半期の+3.6%を上回りましたが、政府・中銀が重要視しているとされる刈込(トリム)平均が前年比+3.9%と第1四半期の+4.0%を下回ったことで、利上げ期待が後退しました。このCPIが出るまでは6日の理事会での利上げ期待がそれなりに見られましたが、この結果を受けていったん後退。一部では年内利下げの期待も見られます。

豪政府が決定した新たな電気代補助金の影響もあり、第3四半期は物価上昇率が鈍化することが見込まれており、利下げに向けた状況がそろいやすいことも、期待の背景にあります。もっともインフレターゲット(2-3%)までまだ遠く、利下げは来年後半ではという見方も強いです。

今回の会合では6会合連続となる政策金利の据え置きが見込まれ、注目は今後に向けての声明やブロック総裁の会見となりそうです。特に注目ポイントとしては、前回会合でも示された委員会は利上げの是非を議論したという表現。豪中銀は利上げと据え置きの両方議論したうえで据え置きを選択したとなっています。今回物価上昇懸念姿勢が後退しているようだと、豪ドル売りが見込まれます。

メキシコ銀行(中央銀行)は8日(日本時間9日4時)に政策会合の結果を公表します。3月以来となる0.25%利下げが見込まれています。

昨年夏ごろから多くの中南米諸国が利下げを開始する中、メキシコは高金利を維持して、今年3月になってようやく利下げに踏みきました。その後は再びの据え置きとなっていました。7月30日に発表されたメキシコ第2四半期GDPが予想を下回る結果となったことで、現行の11%という高金利への警戒感が広がり、利下げ見通しが強まっています。今回の会合で利下げを実施し、今後にも慎重姿勢を見せると、ドル高ペソ安が予想されます。1ドル=19.00ペソを超えての上昇が見込まれます。

ここに掲載されている情報は、情報提供を目的としたものであり、特定の商品などの投資の勧誘を目的としたものではありません。最終的な投資判断は、お客様ご自身の判断と責任によつてなされ、この情報に基づいて被ったいかなる損害についても「株式会社ミンカブソリューションサービス」では責任を一切負いかねます。「株式会社ミンカブソリューションサービス」は、信頼できる情報をもとに情報を作成しておりますが、正確性や完全性について責任を負いません。ここに掲載されている情報は、作成時点のものであり、市場環境等の変化などによって予告なく変更または廃止されることがあります。ここに掲載されている情報の著作権は、株式会社ミンカブ・ジ・インフォノイドに帰属し、株式会社ミンカブ・ジ・インフォノイドの許可無しに転用、複製、複写はできません。株式会社ミンカブ・ジ・インフォノイド